

「浙江大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学文学部1年 井副太一

私は今回の浙江大学スプリングスクールへの参加が自分にとって非常に有益な経験になったと思っています。このプログラムに参加したときは中国語の勉強意欲もさほど高くなく、第二外国語の中国語の授業で紹介されたのをきっかけにあまり考えずに応募しました。主な参加理由は、参加費が安かったこと、期間が2週間とちょうどよく、予定が合わせやすかったこと、気軽に外国に行けて楽しそうだったこと、などあまり積極的なものではありませんでした。中国語の勉強も単位を落とさないように最低限のことしかせず、モチベーションもそこまで高くはありませんでした。

しかしこのプログラムに参加して、中国語の勉強に対する意識がはっきり変わりました。一番強く実感したことは“中国語（語学）はコミュニケーションの道具である”ということでした。このことは当然のことなのですが、京大で中国語の勉強をしているときにはいつのまにか忘れていました。浙江大学の留学生向けの中国語の授業はレベル別のクラスでリーディング、スピーキング、リスニングの三種類があり、世界各国の留学生と一緒に受けます。他の国の留学生はどの授業も同じように受けているのですが、自分はリーディングにしか付いていけず、スピーキングとリスニングは全く付いていけませんでした。この時、これは日本の漢字文化の中で育ったため漢字の読み書きはある程度できるが、中国独自の発音を京大での勉強のときには意識していなかったということに気が付きました。一から漢字を勉強している他国の留学生を見て、日本での中国語の勉強は漢字の知識に頼って発音を軽視した、偏った学習をしていたのだと気づかされました。

また、授業以外の場面で、例えば観光地やお店で、文字を読めるし書けるのに、話しても通じないし何を言われているのかわからないことに強くむなしさを感じました。中国語が実際に使われている環境に2週間身を置いて、いまさらながら会話できるようになるための中国語の勉強をしたいと感じました。さらに、中国語のみならず、英語の勉強意欲も高まりました。中国のどこでも通じるわけではありませんが、現地にいる大学生や銀行などの公的な施設では、英語のコミュニケーションに多少助けられました。しかしそれでも思ったことをすぐに英語で口にするのは難しく、不自由を感じました。

中国語にしても英語にしても、外国の人と楽しく会話できる程度には上達したいし、そうなるためには、現地に身を置くかネイティブの人と話すことが大切だと感じました。そのため、もう一度京大の短期のプログラムで中国に行きたいと思っています。進路についてはいまだに具体的には決まっていますが、就職して仕事の中で中国語が生かせる場面があればいいと思っています。